

## 【中期留学プログラム 米オレゴン大参加者体験記】

06年度中期留学プログラム(英語コース・前期)参加者の中から、米国オレゴン大学留学の2人に体験記を寄せてもらった。

### サッカー通じ異文化体験

石附拓(経済2)

4月から5カ月間、米国オレゴン大学に語学留学のため滞在しました。そこで得た経験はどれも日本では体験出来ない、また感じる事の出来ない貴重なものでした。

特に大学内のサッカー大会を通して、ネイティブとの交流が出来たことは貴重な思い出になりました。留学前から得意なスポーツを生かして、ネイティブとの交流を考えていました。アメリカ到着10日後、すぐにIntramural Sports(校内スポーツ大会)のサッカー大会に参加するための各チームの代表者が集まるミーティングに緊張しながらも一人で出席しました。当時、英語は何とか話せる程度で、大会に参加するのは非常に難しいことでしたが、あるチームが私を引き受けてくれ、それをきっかけに週末はネイティブとのサッカー大会になり、アメリカ人の文化やコミュニケーションの方法などを肌で感じる事が出来るようになりました。

放課後、いろいろな国の人とサッカーをしていた私に、サウジアラビアの友達からオファーがあって、彼ら主催の大会に参加したことも貴重な経験でした。一つのチームで励まし合い、共に勝利を目指して戦う。海外でこんなことが出来るとは夢にも思いませんでした。結果は優勝。あの時の感動は今でも覚えています。校内のほとんどのサウジアラビア人が私の名前を覚え、すれ違うたびに声を掛けてくれたことも忘れられません。また地域のボクシングジムで異文化を体感したことも良い思い出です。

留学中、いろいろなことを感じました。本当の意味での世界の認識、異文化理解、異文化とのコミュニケーション、また、日本人としてのアイデンティティーの確立。すべてが留学前には予想出来なかったことばかり。英語力のブラッシュアップはもちろん、一人の人間として成長出来る場がそこにはありました。これらの貴重な体験を、この先の人生に生かしていきたいと思います。

### 「英語は世界語」を実感

白井佑季(文3)

この中期留学は、大学生活で一番影響を与えてくれた体験だと確信しています。

留学を通じて本当にいろいろな国籍の友達が出来ました。私はホームステイ中、韓国人の女の子と、サウジアラビア人の男の子と生活しました。文化も言葉も価値観も違う人と共に暮らすことなど、ただでさえ大変なのに、自分たちの言葉でない「英語」を通してしか意思疎通出来ないことで、本当に言いたいことが伝わらず、そのせいで言い合ったり、お互いが理解出来なくて涙したこともありました。その時は大変でしたが、今振り返ってみるとこのような経験は日本にいたら絶対出来なかったこと。「留学」したからこそ体験出来た貴重なものだと思います。

留学という、私と同じ目的を持った彼らと暮らして、もっと英語を使いこなして話したい！と強く思いましたし、それが自分自身の向上にもつながりました。いい意味での競争心などの刺激を受けました。また、英語を話せるだけでさまざまな国の人と話すことが出来るのだから、英語は本当に世界語だと体感しました。

授業に関しては、小グループに分かれていろいろな国の人たちとのディスカッションが印象的でした。グループ内では各国一人だけ。自分は日本の代表だと思いながら取り組んでいました。はじめは緊張して自分の意見に自信がなく、授業が億劫でしたが、経験を積むにつれ、意見を主張できるようになり、表現力や責任感なども身につけてきました。

この中期留学を通じて、英語を学ぶという目的のほかに、今後生きていく上で生かしていけるような経験、体験、友人を得ることが出来、それらは確実に私の人生の価値観を変えてくれたと思っています。ですか

ら、留学しようかと迷っている人は絶対に行くべきだと思います。私は振り返るたびに留学して本当に良かった！ と思っているのですから。

## ダブリン大学の魅力 3人の留学生が紹介

協定校のダブリン大学トリニティカレッジから短期留学中の3学生が専大生に母校を紹介するプレゼンテーションを行った。

「秋期日本語・日本事情プログラムおよび日本理解プログラム」に参加のアレシヤ・クリットさん、サム・ティアニーさん、ヴァルバン・ベニシェヴさんの強い希望で実現。3人は英語英米文学科生ら約60人を前に、英・米に比べあまり知られていないアイルランドや首都ダブリンのいま、400年を超える歴史を誇る名門校である同大学の魅力について英語で1時間半にわたって紹介。「ぜひ、母校に留学を」と呼びかけた。



▲左からサム、ヴァルバン、アレシヤの各留学生

## 留学生スピーチコンテスト

### 見事な日本語に温かい拍手

日本語スピーチコンテストが10月17日、生田キャンパスで開催された。出場した8人は、日本との文化の違いや日本語学習の際に感じたこと、戸惑ったことなどを、市民、学生ら約50人のリスナーを前に語りかけた。1位は中国の玄聖花さん(院経済博1)が獲得した。

玄さんは、日本で結婚式に出席した時、家族や親族が久し振りに再会する様子を見て「家族とめったに会わない日本人に驚いた。中国では頻繁に会って家族に自分の感情をストレートにぶつける。それが『いやし』になっているからだ」と、日本と中国との家族間コミュニケーションのとり方の違いについて、巧みな日本語で語った。8人がスピーチを終えたあと、特別参加の専修大学北海道短期大学留学生スピーチコンテストで優勝した于朋シンさん(農業科学2)が「父母への手紙」を披露。感情豊かなのびのびとした語り、会場から温かい拍手が送られた。

なお玄さんは、来年2月中旬に開催される川崎市国際交流協会主催の第13回外国人市民による日本語スピーチコンテストに出場する予定。

表彰式後の懇親会では、就職活動で到着が遅れ出場できなかった崔美子さん(中国・商4)がかけつけ、自身の留学体験を語った。

2位以下の入賞者は次の通り＝敬称略。

▽2位＝崔乗オク(韓国・文学部特別聴講生)▽3位＝ジョ希英(韓国・文学部特別聴講生)▽入賞＝史天展(中国・経済2)／ルトフィ・バクティヤル(インドネシア・院経済修2)／マウジダ・アブドワイト(中国・院経済博3)／朱擘(中国・商2)／朴徹雄(韓国・文学部特別聴講生)

司会＝姜麗娜(中国・院商修1)

## TOEFL模試

## 夏期特訓コースで平均点大幅アップ

夏期特訓コースのTOEFLセミナーが夏期休暇期間中の3週間行われ、受講後に行われたTOEFL模擬試験では、受講者の平均点が大幅アップする結果となった。

今回のTOEFLセミナーは、TOEFL-ITPコース2クラス49人とTOEFL-iBTコース1クラス18人の合計3クラス67人が受講。

セミナー開催の前後2回模擬試験が行われ、2回受験者の平均スコアがITPコースでは48.9点上昇した。中・短期留学に応募可能な430点以上取得者が40人、うち長期交換留学に応募可能な500点以上取得者は6人にのぼった。



▲後期コース実施中

この好結果は、熟練した講師により短い期間で集中的に授業を行ったことが功を奏したと思われる。500点以上取得者は次の通り＝敬称略。

▽相澤有紀(文1)▽酒井理衣(文2)▽松原大(文2)▽土屋麻由(文1)＝以上ITPコース

▽若尾拓哉(文2)▽豊田一樹(経営4)＝以上IBTコース

## ＜専修人の新しい本＞

### 数式を使わずに物理がわかる本＜第I巻＞

水崎 高浩著

本書は、筆者の担当している物理学の受講生が、ブログに授業の感想を書いたことがきっかけで出版されることになったもの。

身近な事例を通じて物理とは何かを考える筆者の授業をベースとし、さらに、一般の方々の教養書として楽しみながら読めるように執筆されている。

野球のボールはどうして変化するのだろうかとか、『ダ・ヴィンチ・コード』に出てくる「金星は五芒星を描く」ってどういうことだろうかと思われた方は、ぜひ手にとってみていただきたい。(秀和システム・本体1400円＋税)

著者(みずさき・たかひろ)＝法学部教授。担当は物理学。



### 近世日英交流地誌地図年表 1576-1800

島田 孝右他著

16—18世紀に刊行された日本関係英国史料に含まれる世界地図と日本地図約220点を復刻し、日本関係の記述と年表、さらに詳細な解説を加えている。従来地図研究は、地理学的関心と製作の歴史への傾斜が大きな特長であったが、本書では、刊行物の中の地図と記述を併記することによって、両者を比較できる工夫がなされており、英国における日本のイメージの変遷を視覚的にまた、歴史的に展望できる。第2部は、著者が収集した日本関係刊行物約1550点の文献史料一覧である。(雄松堂出版・本体2万円＋税)

著者(しまだ・たかう)＝商学部教授。担当は英語。



### ヴェーバー社会科学の現代的展開 グローバル化論との結合の試み

川上 周三著

本書を貫く特徴は、ヴェーバーの社会科学をグローバルな視点から読み解き、その社会科学の思考の現代的展開を試みているところにある。

本書は、最初に、ヴェーバー社会科学の構成及びヴェーバー社会科学と現代社会学理論との関係を検討している。後半部では、ヴェーバーの国際政治論、特にナショナリズム論を媒介にして、彼の理論と今日のグローバル化論との関係に言及している。次に、ヴェーバーと賀川豊彦の社会科学的思考を比較検討し、そのグローバル的視圏を解明している。

最後に、アンソニー・ギデンズのグローバル化論とヴェーバーの社会科学等を結合させ、その枠組みを用いて、「文化とグローバル化」との関係の具体的分析を行っている。(専大出版局・本体3200円＋税)

著者(かわかみ・しゅうぞう)＝文学部教授。主な担当は比較文化論ほか。

